

マルチファンクションギガビットイーサネットスイッチ

【NGC-460 シリーズ】

取扱説明書

使用上の注意 【必ずお読みください】

電源を投入しますと装置本体が若干発熱します。通常の使用で人体に影響を与えたり、装置本体が発火することはありません。

以下の点に注意してご利用ください。

- ・ SFP モジュールを装着後に SFP モジュールを直視しないでください。直視すると失明の危険性があります。
- ・ 装置が適切に放熱され、装置周囲に十分な換気があることを確認してください。
- ・ 装置本体を重ね置いて設置しないでください。
- ・ 装置本体を分解しないでください。
- ・ 過度のホコリは装置故障の原因になりますので、防塵対策をご考慮ください。
- ・ PoE 機能を使用する場合は入力電圧に注意してください。

同梱物の確認

この製品には以下の内容物が同梱されておりますので、最初に確認してください。

- ・ 装置本体

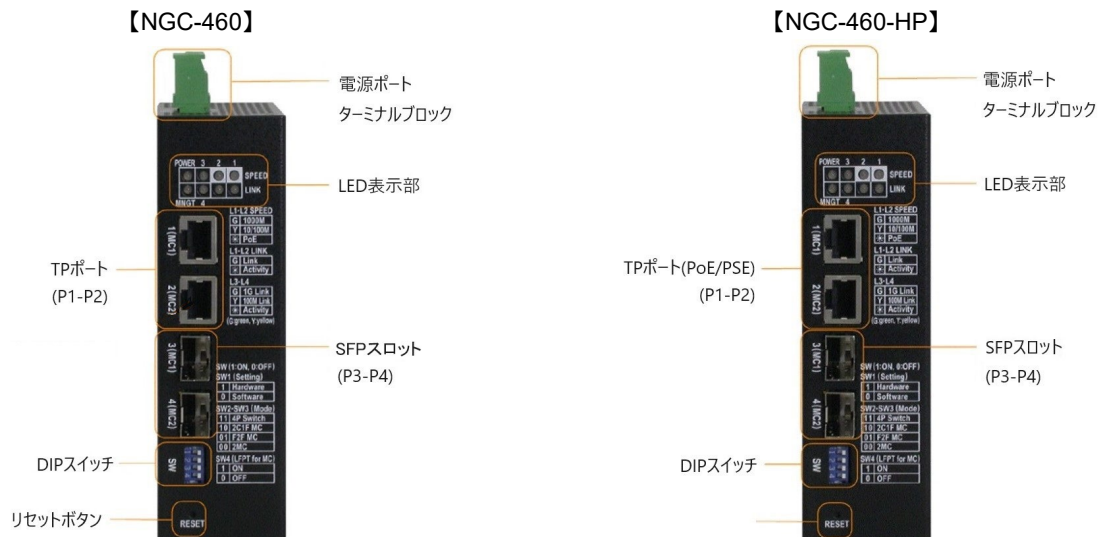
機種別基本仕様

各製品の基本的な仕様は以下になります。詳細については仕様書をご確認ください。

製品番号	TP ポート	FO ポート	合計 PoE 出力	ポート PoE 出力	マネジメント機能
NGC-460	2	2(SFP スロット)	なし	なし	あり
NGC-460-HP	2	2(SFP スロット)	60W	IEEE802.3at(30W)	あり

装置本体と各種部位の説明

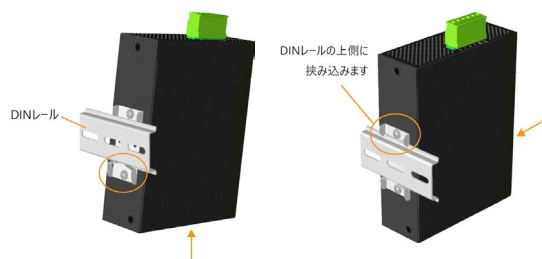
【NGC-460-HP】の TP ポート#1~#2 は PoE 出力 (IEEE802.3at) が可能なポートとなっております。



装置本体の DIN レールへの取付けについて

本体に装着してある DIN レール取付金具を使用して DIN レールに製品を固定することができます。

- ・ DIN レールの下側に DIN レールマウントブラケットの下側を当てます。
- ・ マウントブラケットが DIN レールの上側に装着固定されるところまで装置本体を上押しあげます。
- ・ マウントブラケットが DIN レールに固定されていることを確認してください。



DC 電源の装置本体への接続について

ターミナルブロック 2 ピンからの DC 電源入力をサポートしております。ターミナルブロックから DC 電源を供給する場合は DC ワイヤープラグに適合したハーネスを取り付けてターミナルブロックに差し込んでください。電源が十分に供給できない可能性があるため、適合範囲外のハーネスは使用しないでください。電極を間違えると電源が供給されませんので極性を間違えないように注意してください。



ターミナルブロックコネクタ

＜ターミナルブロック仕様＞

ピン配列	Pin 1: DC(+) Pin 2: DC(-)
DC 電源用ハーネス	AWG24～12 (IEC 0.5～2.5 mm ²)、ハーネス最大長: 1m
入力電圧範囲	DC+8～+60V (PoE 非稼働時) DC+45～+57V (PoE/PoE+稼働時)【NGC-460-HP】 ※DC-48V には対応していません。
消費電力	最大 6W@56VDC (PoE 非稼働時) 最大 66W@56VDC (PoE フルロード出力時)【NGC-460-HP】

警報出力について

DC 電源の入力異常や指定されたポートのリンクダウンが発生した際に、警報としてリレー接点出力することができます。接点出力のロジックとして、ノーマル・オープン(NO)とノーマル・クローズ(NC)のいずれかを選択することができます。信号配線には付属の 3P 端子プラグを使用し、ターミナルブロックに差し込みます。



ターミナルブロックコネクタ

＜アラームイベント＞

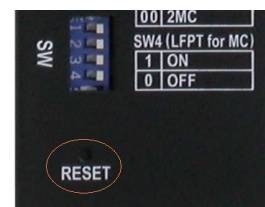
- ・ 入力電源障害
- ・ 特定ポートのリンクダウン(特定ポートはソフトウェアで設定できます)

コネクタ	ノーマル・オープン(NO)使用時: #4-#5 ノーマル・クローズ(NC)使用時: #5-#6 #5 はどちらにも使用するコモン端子です。
耐電圧	DC+30V/1A max.または AC120V/0.5A max.
リレーロジック(NO)	ノーマル・オープン(NO) 通常状態: オープン 異常発生時: ショート
リレーロジック(NC)	ノーマル・クローズ(NC) 通常状態: ショート 異常発生時: オープン
アラームイベント	DC 電源異常時 指定ポートリンクダウン(指定ポートはソフトウェアで設定)

注: リレー接点に印加される電圧は 30VDC/1A max.または 120VAC/0.5A max.の仕様内であることを確認してください。

リセットボタン

リセットボタンは通常は使用されませんがネットワーク診断などの目的に使用することができます。ネットワークの問題が疑われる場合は、電源を切らずにリセットボタンを押してスイッチをリセットしてからネットワークが復旧したかを確認してください。また、このリセットボタンを使用して、製品を工場出荷時の状態に戻すことも可能です。



動作	
スイッチが稼働しているときにボタンを押して離す	スイッチをリセットして起動します。 起動には約 20 秒かかり、すべての LED が黄色に点灯し、緑色に点灯してから一度すべて消灯して終了します。
すべての LED が黄色に点灯し、緑色に点灯してからすべて消灯するまでボタンを押し続ける	起動後に工場出荷時のデフォルト設定の状態に戻します。

LED 説明

本装置には 8 個の表示 LED が具備されています。表示 LED の色と点灯、消灯、点滅の状況によって電源入力状態、装置の状態やポートの伝送速度、リンク状態をモニタすることができます。

<LED 表示>

- POWER → DC 電源の入力状態
- MNGT → 装置の起動状態
- SPEED (4 ポート) → 伝送□度
- LINK (4 ポート) → リンク状態データの有無



LED 表記	色	表示	状態
POWER	緑	点灯	電源が供給されている
	-	消灯	電源が供給されていない
MNGT	-	消灯	装置の初期起動状態、または診断中の状態
	緑/黄	点滅	診断エラーで初期起動が完了、または動作中にシステムエラーが発見された状態
	緑	点灯	2MC モードで診断エラーが発見されずに初期起動が完了した状態 (正常)
	緑	点滅	F2F MC モードで診断エラーが発見されずに初期起動が完了した状態 (正常)
	黄	点灯	2C1F MC モードで診断エラーが発見されずに初期起動が完了した状態 (正常)
	黄	点滅	4P SW モードで診断エラーが発見されずに初期起動が完了した状態 (正常)
Port 1~2 SPEED	緑	点灯	伝送速度が 1000Mbps の状態
	黄	点灯	伝送速度が 10Mbps、または 100Mbps の状態
	緑/黄	点滅	PoE 機能が ON の状態
Port 1~2 LINK	緑	点灯	ポートがリンクアップしているが、データの送受信が無い状態
	緑	点滅	ポートがリンクアップしていて、データの送受信がある状態
	-	消灯	ポートがリンクダウンの状態
Port 3~4 LINK	緑	点灯	ポートが 1000Mbps でリンクアップしている状態
	緑	点滅	ポートが 1000Mbps でリンクアップしていて、データの送受信がある状態
	黄	点灯	ポートが 100Mbps でリンクアップしている状態
	黄	点滅	ポートが 100Mbps でリンクアップしていて、データの送受信がある状態
	-	消灯	ポートがリンクダウンの状態

SFP スロットについて

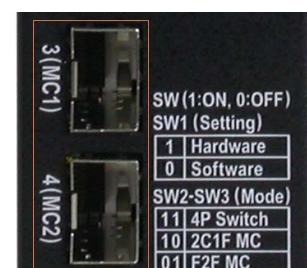
SFP スロットの#3 と#4 には、ファイバー接続を行うために SFP モジュールを取り付ける必要があります。

この 2 つのポートは 100Mbps と 1000Mbps の両方の通信速度に対応しております。

- 1000BASE-X 対応 1000Mbps SFP モジュール
- 100BASE-FX 対応 100Mbps SFP モジュール

<SFP モジュールの取付け方法>

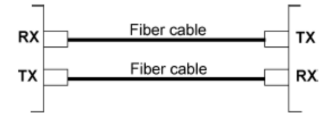
1. 装置の電源を切ります。



- 2. SFP モジュールを SFP スロットに挿入します。
- 3. SFP モジュールがスロットにしっかり収まるまで押し込みます。

＜光ファイバケーブルの接続＞

ケーブル接続を行う前に TX(送信)と RX(受信)を確認してください。右図は 2 つのファイバポート間の接続例です。光ファイバケーブルの両端において、RX-TX 接続ルールが守られていることを確認してください。



＜光ファイバの種類＞

光ファイバにはいくつか種類があります。SFP モジュールに合った光ファイバを選定して接続してください。

以下は光ファイバの種類の例です。

- ・ マルチモード(MMF) - 50/125、62.5/125
- ・ シングルモード(SMF) - 9/125

＜ポート速度設定＞

SFP ポートは、ソフトウェアでポートの通信速度を以下のように設定することができます。

Auto モード	SFP モジュールの DDM データを読み込み、SFP モジュールのタイプを自動検出する 100Mbps SFP モジュール装着時： 非オートネゴシエーション(Force) 100Mbps 全二重 1000Mbps SFP モジュール装着時： オートネゴシエーション 1000Mbps 全二重
100Mbps FDX モード	非オートネゴシエーション(Force) 100Mbps 全二重
1Gbps FDX モード	オートネゴシエーション 1000Mbps 全二重

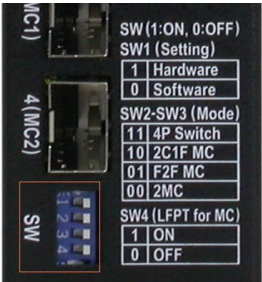
マルチファンクション機能について

この装置では、以下の 4 つの動作モードの設定ができます。

- 1. 2MC mode: デュアルメディアコンバータモード
- 2. 2C1F MC mode: デュアルメディアコンバータ FO リダンダントシェアモード
- 3. F2F MC mode: Fiber to Fiber メディアコンバータモード
- 4. 4P Switch mode: 4P スイッチモード

DIP スイッチについて

マルチファンクション機能は DIP スイッチとソフトウェアで設定や確認ができます。

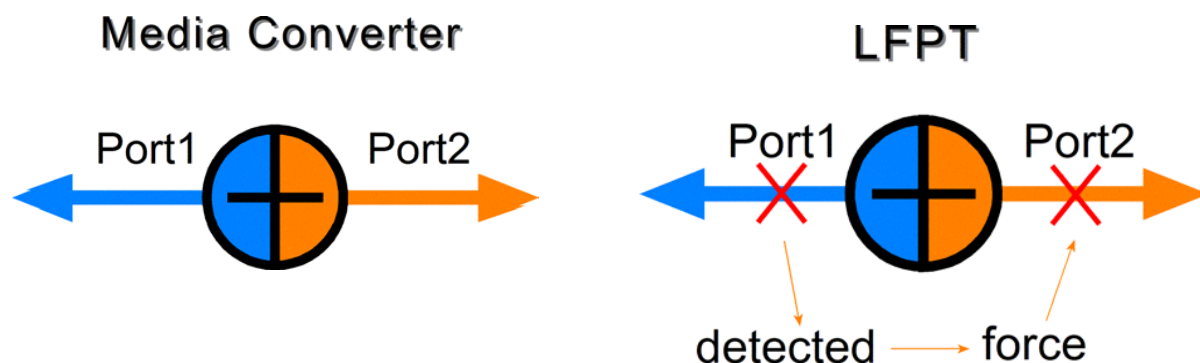


No	表記	状態	機能	説明
SW1	1	ON	ハードウェア設定	1. 動作モードは SW2 と SW3 の設定により判断 2. 全 4 モードで使用される LFPT 機能設定は SW4 設定により決定 3. DIP スイッチの設定を優先するため、ソフトウェア設定は無効 4. ソフトウェアで設定状況を監視することが可能
	0	OFF	ソフトウェア設定	1. SW2, SW3, SW4 の設定は無効 2. 動作モードおよび LFPT 機能は、ソフトウェア設定により決定
SW2/SW3	00	OFF/OFF	2MC Mode	デュアルメディアコンバータモード
	01	OFF/ON	2C1F MC mode	デュアルメディアコンバータ FO リダンダントシェアモード
	10	ON/OFF	F2F MC mode	Fiber to Fiber メディアコンバータモード
	11	ON/ON	4P Switch mode	4P スイッチモード
SW4	1	ON	LFPT ON	LFPT 機能 有効
	0	OFF	LFPT OFF	LFPT 機能 有効

LFPT 機能について

LFPT(Link Fault Pass Through function)機能はメディアコンバータモード(4P Switch Mode 以外)において機能させることができます。異なるメディアタイプ(TP ケーブル、シングルモード、マルチモード)が混在していても機能を有効にできます。また、通信速度が異なる場合でも有効にすることができます。

LFPT 機能は、メディアコンバータモード時のオプション機能になります。この機能を有効にすると、メディアコンバータは一方のポートセグメントでリンクフォルトを検出すると、もう一方のポートセグメントのリンクを強制的に切断します。リンクフォルトのステータスが片方のポートセグメントからもう片方のポートセグメントに伝わっていきます。この機能により、メディアコンバータに接続されている機器は、どこでリンクダウンが発生しても最終的にリンクダウンの状態を検出することができるため、どのケーブルセグメントでリンクダウンが発生しても、上位アプリケーションにとって必要なアクションを取ることができます。



<各動作モードの機能設定一覧>

動作モード	機能	SW1=1 (DIP スイッチ設定)	SW1=0 (ソフトウェア設定)
2MC Mode	マネジメント機能の設定 ※1	利用可能	利用可能
	LFPT 機能の有効/無効設定	SW 4 で設定可	ソフトウェアで設定可能
	ポートの設定	全ポートに対して自動設定	ソフトウェアで設定可能
	IGMP	設定不可	ソフトウェアで設定可能
	LLDP	設定不可	ソフトウェアで設定可能
	DDM	設定不可	ソフトウェアで設定可能
	PoE ※2	有効/Auto	利用可能
2C1F MC mode	マネジメント機能の設定 ※1	利用可能	利用可能
	LFPT 機能の有効/無効設定	SW 4 で設定可	ソフトウェアで設定可能
	ポートの設定	全ポートに対して自動設定	ソフトウェアで設定可能
	IGMP	設定不可	ソフトウェアで設定可能
	LLDP	設定不可	ソフトウェアで設定可能
	DDM	設定不可	ソフトウェアで設定可能
	PoE ※2	有効/Auto	利用可能
F2F MC mode	マネジメント機能の設定 ※1	利用可能	利用可能
	LFPT 機能の有効/無効設定	SW 4 で設定可	ソフトウェアで設定可能
	ポートの設定	全ポートに対して自動設定	ソフトウェアで設定可能
	IGMP	設定不可	ソフトウェアで設定可能
	LLDP	設定不可	ソフトウェアで設定可能
	DDM	設定不可	ソフトウェアで設定可能
	PoE ※2	有効/Auto	利用可能
4P Switch mode	すべての機能	ソフトウェアで設定可能	ソフトウェアで設定可能
	LFPT 機能の有効/無効設定	設定不可	設定不可

※1: マネジメント管理機能によるソフトウェア設定

※2: PoE 機能の設定は【NGC-460-HP】のみ対象となります。

2MC Mode について

「2MC Mode」はデュアルメディアコンバータモードになります。DIP スイッチやソフトウェアでの設定により、本装置は 1 つの機器で 2 つのメディアコンバータとして使用することができます。

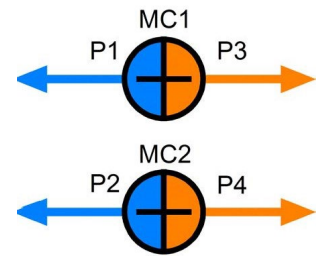
ポート 1 とポート 3 は MC1 コンバータのポートとなり、ポート 2 とポート 4 は MC2 コンバータのポートとなります。2 つのメディアコンバータは独立して機能します。

<構成>

メディアコンバータ①(MC1): 1 番(TP ポート) — 3 番(SFP ポート)

メディアコンバータ②(MC2): 2 番(TP ポート) — 4 番(SFP ポート)

2MC MODE



F2F MC Mode について

「F2F MC Mode」は Fiber to Fiber メディアコンバータと呼ばれます。この動作モードでは、2 つの SFP スロットに搭載された SFP モジュール同士をメディアコンバータとして通信させることができます。

この動作モードでは、ポート 1 とポート 2 は使用されず、ポート 3 とポート 4 には接続されていません。

マルチモード(MMF)とシングルモード(SMF)の変換としての使用が最も一般的なアプリケーションです。

LFPT 機能オプションも利用できます。一方のポートリンクに障害が発生すると、もう一方のポートリンクを強制的にダウンさせます。LFPT はソフトウェアで設定できますが、ポート 3 とポート 4 のみ対象となります。

<構成>

メディアコンバータ: 3 番(SFP ポート) — 4 番(SFP ポート)

F2F MC Mode



2C1F Mode について

「2C1F Mode」は、デュアルメディアコンバータが 1 つの SFP ポートを共有する動作モードになります。

この動作モードでは、ポート 3 とポート 4(P3/4)がリンクアグリゲーションポート(トランクポート)となります。

ポート 1 と P3/4 が 1 つのメディアコンバータ(MC1)のポートとなり、ポート 2 と P3/4 がもう一つのメディアコンバータ(MC2)のポートになります。MC1 と MC2 はそれぞれ独立していますが、アップリンク用に 1 つのトランクポートを共有している状態となります。トランクポートの P3/4 は LACP 準拠により同一ポートの扱いとなります。ポート 3 とポート 4 は冗長構成になっており、いずれかのポートでリンク障害になるともう一方のポートが MC1 と MC2 の伝送を引き継ぐことで通信の中断を回避します。このモードでは LFPT 機能も使用できます。

<LFPT の動作>

1. トランクポートのポート 3 とポート 4 の両方がリンクダウンした場合、ポート 1 とポート 2 を強制的にリンクダウンさせます。
2. ポート 1 とポート 2 の両方がリンクダウンした場合、トランクポートのポート 3 とポート 4 の両方を強制的にリンクダウンします。
3. ポート 1 とポート 2 のどちらか一方のリンクダウンのみでは、トランクポートのポート 3 とポート 4 はリンクダウンしません。

<2C1F Mode のメリット>

1. 独立した 2 台のメディアコンバータによるアップリンクの共有が可能
2. ファイバーアップリンクを冗長化することで、どちらか一方のファイバーケーブルが故障していても、両方のメディアコンバータとも動作できます。

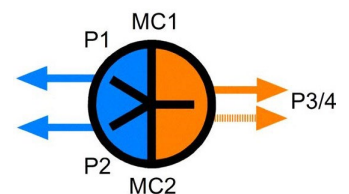
<構成>

メディアコンバータ①(MC1): 1 番(TP ポート) — 3 番/4 番(SFP ポート)

メディアコンバータ②(MC2): 2 番(TP ポート) — 3 番/4 番(SFP ポート)

※SFP ポート側はトランクポート

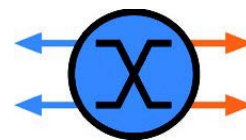
2C1F MODE



4P Switch Mode について

「4-P Switch Mode」は、10/100/1000M の TP ポート 2 つと 100/1000M の SFP スロットを 2 つ備えた

一般的なマネージメントギガビットイーサネットスイッチのように動作するモードです。



<管理機能>

- HTTP/HTTPS/SSHv2/CLI telnet/CLI コンソール/SNMP v1/v2c/v3/RMON
- DHCP/DHCPv6 クライアント、DHCP リレー、DNS クライアント、NTPv4
- IPv6 サポート、システム Syslog、設定ダウン/アップロード、ソフトウェアアップロード

<セキュリティ機能>

- NAS、802.1X、MAC ベース/Web/CLI 認証
- IP MAC バインディング、TACACS+、IP ソースガード

<レイヤー2 機能>

- QoS、802.1Q/MAC ベース/プロトコルベース/プライベート/IP サブネット VLAN、ポート分離
- UC/MC/BC パケットのストームコントロール、スタティック MAC コンフィグレーション
- IGMP v2/v3 スヌーピング、MLD v1/v2 スヌーピング、DHCP スヌーピング
- マルチブルスパニングツリー MSTP、RSTP、STP

<オートマルチリング機能>

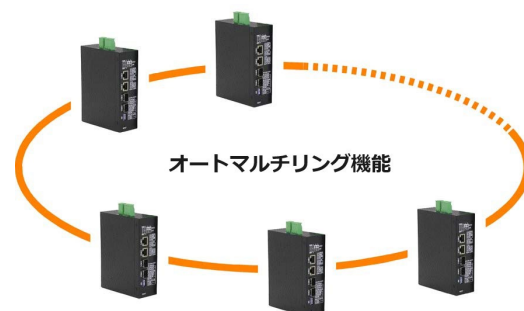
- 高速フェイルオーバー応答時間、障害修復時の自動回復
- 最大 5 つまでの冗長リング構成をサポートでき、RSTP ネットワークに対応

オートマルチリング機能について

オートマルチリング機能は、リングトポロジーで接続されるスイッチのための機能です。オートマルチリング機能は複数のリング接続に対してサポートすることができます。また、RSTP も同時にサポートすることができます。

<基本仕様>

- ・ 1 台のスイッチで最大 2 つのリング、全体で最大 5 つまでのリング構成が可能
- ・ 1 つのリングで最大 100 台のリング・メンバーのスイッチのステータス監視に対応
- ・ 全体で最大 250 台のスイッチのリング接続が可能
- ・ 1 つまたは複数の障害が発生した場合に自動的にバックアップ回線に切り替え可能
- ・ 障害が修復されると自動的に復旧（複数の障害が発生した場合は制限があります）
- ・ RSTP プロトコルより速い応答時間を実現
- ・ 1 台のスイッチ内で RSTP プロトコルと同時に動作させることが可能



RSTP プロトコルによるオートマルチリング機能について

標準的な RSTP 機能を使用してリング接続をサポートし、バックアップパスを確立することもできます。リンク障害が発生した場合、バックアップパスが即座にリンクアップし、ネットワーク動作を回復することができます。

基本仕様

製品の基本的な仕様は以下になります。

外観寸法	140(H)×106(D)×42(W)mm（突起部を除く）
重量	500g
TP ポート	10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T オートネゴシエーション/ソフトウェア設定 10Mbps/100Mbps/1000Mbps RJ45 シールドジャック 全二重、半二重通信方式 MDI/MDI-X オートクロスオーバー

	適合ケーブル AWG24 STP/UTP Cat.5 以上 (～100m)
PoE 機能 【NGS-460-HP】	IEEE 802.3at PD 検出クラス:0～4 供給電力:最大 30W/port 電力不足保護機能/過電圧保護機能/過電流検出機能
SFP ポート	100BASE-FX/1000BASE-X Auto 1000Mbps 全二重/ Force 100Mbps 全二重 SFP スロット ※詳細仕様は SFP モジュールに準拠
使用温度範囲	-40℃～+75℃
電源コネクタ	スクリューターミナルブロック(Pin 1:Vdc+, Pin 2:Vdc-)
DC 電源用ハーネス	AWG24～12(IEC 0.5～2.5 mm ²)、ハーネス最大長:1m
消費電力	最大 6W@56VDC(PoE 非稼働時) 最大 66W@56VDC(PoE フルロード出力時)【NGC-460-HP】
入力電圧範囲	DC+8～+60V(PoE 非稼働時) DC+45～+57V(PoE/PoE+稼働時)【NGC-460-HP】
ファンクションモード	2MC mode: デュアルメディアコンバータモード 2C1F MC mode: デュアルメディアコンバータ FO リダンダントシェアモード F2F MC mode: Fiber to Fiber メディアコンバータモード 4P Switch mode: 4P スイッチモード
スイッチ機能	<マネジメント機能> HTTP/HTTPS/SSHv2/CLI telnet/SNMP v1/v2c/v3/RMON DHCP/DHCPv6 client, DHCP relay, DNS client, NTPv4 IPv6 support, System Syslog, Configuration down/upload, Software upload <セキュリティ機能> NAS, 802.1X, MAC-based/Web/CLI authentication IP MAC binding, TACACS+, IP source guard <Layer 2 機能> QoS, 802.1Q VLAN, Storm control for UC/MC/BC packets, Static MAC configuration, IGMP v2/v3 snooping, MLD v1/v2 snooping, DHCP snooping, Multiple Spanning Tree – MSTP, RSTP, STP <オートマルチリング機能> - Fast failover response time, Auto recovery when failure is repaired - Supports up to five redundant rings, Works with RSTP network - Supports relay alarm and SNMP trap when ring failure occurs

ログイン情報について

IP アドレスは、TCP/IP ネットワーク内のスイッチの ID です。各スイッチには、ネットワーク内で新しい一意の IP アドレスを指定する必要があります。

スイッチは、次のソフトウェア管理の工場出荷時のデフォルト設定で出荷されます。ログイン時の IP アドレスとパスワードは以下の通りです。

IP アドレス: 192.168.0.2 / 255.255.255.0

Username: admin

Password: (ブランク)

Telnet CLI による IP アドレスの変更について

PC のコマンドプロンプト等から”Telnet 192.168.0.2” を入力してログインしてください。ログインユーザ名とパスワードは前出の通りです。

<IPv4 アドレス>

> IP/setup [IP アドレス] [マスクアドレス] [デフォルトゲートウェイ] [VLAN ID]

※ VLAN 機能を使用しない場合は、VLAN ID をデフォルト VLAN の「1」としてください。

<IPv6 アドレス>

> IP/IPv6/setup [IPv6 アドレス] [IPv6 マスクアドレス] [IPv6 デフォルトゲートウェイ]

※ IPv6 アドレスは 128 ビットですが、16 進数 4 桁の 8 つの各フィールドをコロンの「:」で区切って表記してください。

<パスワード>

> Security/Switch/Users/add [ユーザ名] [新しいパスワード] [ユーザ権限]

> Security/Switch/Users/delete [ユーザ名]

Web マネジメントのログインについて

PC と装置を LAN ケーブルで接続した後、ブラウザソフトウェアから “http :/ 192.168.0.2”を入力してログインしてください。以下のログイン画面が表示されます。

IP アドレス: 192.168.0.2

Username: admin

Password: (ブランク)



Enter Network Password

Please type your user name and password.

Site: 192.168.0.2

Realm: webstax_domain

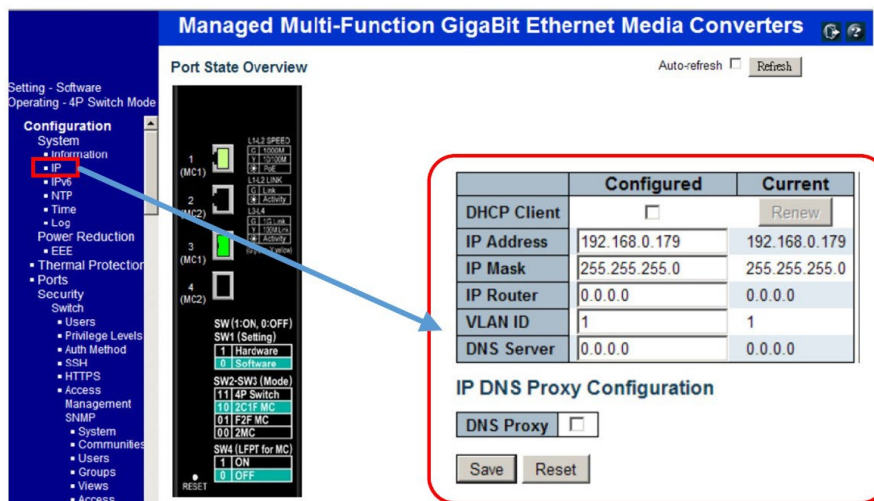
User Name:

Password:

☐ Save this password in your password list

OK Cancel

“http :/ 192.168.0.2” へのログインに成功すると以下に示しますウィンドウズ画面が表示されます。ログインユーザ名とパスワードで、IP アドレスを変更してください。



Managed Multi-Function GigaBit Ethernet Media Converters

Port State Overview

Auto-refresh ☐ Refresh

Configuration

- System
- Information
- IPV6
- NTP
- Time
- Log
- Power Reduction
- EEE
- Thermal Protector
- Ports
- Security
- Switch
- Users
- Privilege Levels
- Auth Method
- SSH
- HTTPS
- Access
- Management
- SNMP
- System
- Communities
- Users
- Groups
- Views
- Access

SW1 (1: ON, 0: OFF)

SW1 (Setting)

1 Hardware

0 Software

SW2-SW3 (Mode)

11 4P Switch

00 2P MC

01 F2P MC

00 2MC

SW4 (LFP for MC)

1 ON

0 OFF

	Configured	Current
DHCP Client	☐	Renew
IP Address	192.168.0.179	192.168.0.179
IP Mask	255.255.255.0	255.255.255.0
IP Router	0.0.0.0	0.0.0.0
VLAN ID	1	1
DNS Server	0.0.0.0	0.0.0.0

IP DNS Proxy Configuration

DNS Proxy ☐

Save Reset

SNMP マネジメント設定について

本装置は 3 つのマネーメントタイプ SNMP v1/v2c/v3 をサポートしています。使用する SNMP マネージャの仕様を確認し、適切な SNMP 設定を確認してください。Telnet CLI から実行が可能な SNMP に関するコマンドは以下となります。

>SNMP Configuration

>SNMP Mode [enable | disable]

>SNMP Version [1 | 2c | 3]

>SNMP Read Community [<community>]

>SNMP Write Community [<community>]

>SNMP Trap Mode [enable | disable]

>SNMP Trap Version [1 | 2c | 3]

>SNMP Trap Community [<community>]

>SNMP Trap Destination [<ip address string>]

>SNMP Trap Authentication Failure [enable | disable]

>SNMP Trap Link-up [enable | disable]

>SNMP Trap Inform Mode [enable | disable]

>SNMP Trap Inform Timeout [<timeout>]

>SNMP Trap Inform Retry Times [<retries>]
>SNMP Trap Probe Security Engine ID [enable | disable]
>SNMP Trap Security Engine ID [<engineid>]
>SNMP Trap Security Name [<security_name>]
>SNMP Engine ID [<engineid>]
>SNMP Community Add <community> [<ip_address> | <ip_mask>]
>SNMP Community Delete <index>
>SNMP Community Lookup [<index>]
>SNMP User Add <engineid> <user_name> <auth_password> [DES] <Prov_password>
>SNMP User Delete <index>
>SNMP User Changekey <engineid> <user_name> <Auth_password> [<prov_password>]
>SNMP User Lookup [<index>]
>SNMP Group Add <security_model> <security_name> <group_name>
>SNMP Group Delete <index>
>SNMP Group Lookup [<index>]
>SNMP View Add <view_name> [included | excluded] <oid_subtree>
>SNMP View Delete <index>
>SNMP View Lookup [<index>]
>SNMP Access Add <group_name> <security_model> <security_level> [<read_view_name>] [<write_view_name>]
>SNMP Access Delete <index>
>SNMP Access Lookup [<index>]

SNMP MIB について

本装置は以下の SNMP MIB を提供しております。

- RFC 1213 -MIB II
- RFC 2674 - QBridge MIB (VLAN MIB)
- RFC 2819 - RMON (Group 1, 2, 3 & 9)
- RFC 2863 - Interface Group (IF) MIB
- RFC 3411 - SNMP Management Frameworks
- RFC 3414 - User Based Security Model (USM)
- RFC 3415 - View Based Access Control Model (VACM)
- RFC 3621 - Power Ethernet MIB
- RFC 3635 - EtherLike MIB
- RFC 3636 - 802.3 Medium Attachment Units (MAUs) MIB
- RFC 4133 - Entity MIB
- RFC 4188 - Bridge MIB
- RFC 4668 - RADIUS Authentication Client MIB
- RFC 5519 -Multicast Group Membership Discovery (MGMD) MIB
- IEEE 802.1 MSTP MIB
- IEEE 802.1AB LLDP MIB
- IEEE 802.1X Port Access Entity (PAE) MIB
- TIA 1057 LLDP Media Endpoint Discovery (MED) MIB

- IEEE 802.1-Q-BRIDGE MIB

- Private SFPDDM MIB

これらの MIB ファイルは製品に同梱されている QR コードからダウンロードが可能です。

保証規定

【保証期間】 販売月翌月 1 日より 6 年間 (2025 年 10 月末までの出荷分の保証期間は 5 年間)

【保証内容】 先出しセンドバックにて代替機を発送

※在庫状況や受付時間によっては当日出荷できない場合がございます。

保証期間は弊社にて確認できますので、機種名、シリアル番号をご確認の上、弊社までお問い合わせください。

次のような場合には有償対応となります。また、往復発送費用もご負担いただきます。

- ・ 保証期間を過ぎている場合
- ・ 本製品の説明書に記載された使用方法及び注意事項に反してお取り扱いになって生じた故障・損傷の場合
- ・ お買い上げ後の輸送や振動、落下、衝撃などお取り扱いが不適当なため生じた故障/損傷の場合
- ・ 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害や異常電圧などにより生じた故障/損傷の場合
- ・ 接続している他の機器、その他外部要因に起因して生じた故障/損傷の場合
- ・ 改造及び弊社以外での調整、部品交換などをされたことにより生じた故障/損傷の場合

保証書は発行しておりません。保証書の発行をご希望のお客様は、弊社窓口までお問い合わせください。

本製品の故障、損傷、またはその使用中に生じた直接または間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

お問合せ先

製品に関するお問い合わせ、不具合発生時のご連絡は、下記弊社窓口までお問い合わせください。弊社ホームページでは仕様書や説明動画などをご用意しておりますので、併せてご利用ください。

【問い合わせ窓口】

日本テレガートナー株式会社

住所： 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 22-14 N.E.S ビル N 棟7階

TEL： 03-6455-3210 (平日 9:00～12:00、13:00～17:00 ※弊社規定休日を除く)

FAX： 03-6455-3212

E-Mail: sales@telegaertner.co.jp

Web: <https://telegaertner.co.jp/>